

生涯学習情報紙：生きがい探しのパートナー
感動人生！ここに生きる元気な人間ひと



▼人生の大先輩との交流は心を磨きます

▼大笑いのお化粧競争



▼町田校長と活動の核となる皆さん



▲光の中の美しいシーンが印象的



▼大声と元気いっぱい応援合戦

ボランティア委員会活動 向原中学校
心のふれあい〜自分の心を磨きたい

ボランティア委員会の今年度初会議で、全クラスから選出された委員に岩下委員長が活動目標を配布。顧問の鈴木先生から「相手の気持ちや立場になって、どう接すればいいか自分なりに考え、行動すること。反省は次の機会に生かしてほしい」と。草村先生からは「ボランティア活動は、手助けや援助など喜んでもらえるだけでなく、ふれあいを通じて自分の心が磨かれ、結局は自分のためになる」と説明がありました。また、町田校長も「教育目標にある『心豊かな生徒』を目指し、ボランティア活動を通して、人の痛みや苦悩が理解できる心豊かな人間に成長してほしい」と願われました。

五月二十六日、特別養護老人ホーム「杏樹苑」での活動に、全校で七〇名以上の参加があり、二班に分かれて活動しました。館内清掃班は、窓ガラスを一生懸命拭き、ピカピカに磨き上げました。苑庭での運動会の楽しげな様子に、うらやましそうに手を振る姿も見られましたが、磨き上げられたガラスから、降り注ぐ光に館内もより明るくなり、施設長の感謝の言葉に、生徒たちは皆、使命を果たしたという面持ちでした。

運動会手伝い班は、競って見せたり、選手とペアになって支援しながら競ったりの大活躍。中学生らしい元気な大声での応援合戦、お玉リレーでは、玉を落とさないように車椅子を押しました。小麦粉の中のを口で拾うお化粧競争では、口周りや顔を真っ白くしている生徒や職員が皆さんに大ウケ！生徒たちも楽しみました。玉入れでは、車椅子の選手に玉を拾って手渡し、入れば喜び合い、外れると応援し、一緒に頑張って競っていました。

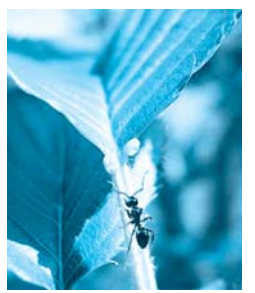
平凡になりがちなホーム生活とは違う一日にお年寄りの皆さんニコニコ。子供の頃を思い出しているようでした。

運動会終了後、車椅子を押して部屋に送っていく生徒、会話ができないお年寄りといつまでも手を握り合っている生徒。さまざまに相手を思いやる心を深めました。



■自然観察指導員 有馬麗子さん(下藤沢)

「大輪の花よりも、道端で一糸懸命咲いている草花が大好き」と、はつらつとよく通る声で話される有馬さん。「植物は側へ行つてよく観て、触って、揉んで匂いを嗅いで、時には舌でも感じて、五感を使って観てほしい。特にレンズを使うと植物の息づかいを感じられます」。



▲丸いのがサクラの蜜腺。甘い蜜に魅かれたアリが葉の表や裏を歩き回るのので、他の虫が卵を生みつけることが出来ずに葉の成長を助けている



▲有馬さんの説明に、観て、触れて、自然と熱中！ご主人もビデオを持って一緒に…

「植物は子孫を残すために、いろいろな知恵をだしています。ツツジの花の点々模様のように、虫に蜜の場所を教える道しるべ(蜜標)をつけて受粉を助けていたり、モクレンのように実が甘くなると、風に揺らし、鳥に気づかせて種を運ばせたり、あらゆる知恵を凝らしています。サクラのように、葉が蜜を出しているもの(蜜腺)もあります。蜜を出すことは、大変パワーのいることですが、サクラが葉を守るために身につけた知恵なのです。植物は、その場所できかに光と栄養を貰えるか、一生懸命です。人間も生きるための知恵を、植物から学んでほしいですね」。

これまで自然観察以外にも様々な活動をしてきましたが、五十五歳で、ついに念願の山野草の会「道草」を、ご主人の協力のもと発足しました。さらに知識を深めるために勉強して、二年後に自然観察指導員の資格をとりました。「五〇六人の方が集まってコースを決めてくださればご案内しますよ。皆さんにいろいろな経験をしてほしい」。それまで野鳥観察が趣味のご主人も、今では植物に大変興味を持ち、お二人の趣味にもなりました。「これまで読書家の主人にいろいろ教わりましたが、植物では私が先生です。これからはお互いに学び合っていきたい」。周囲から「つがい夫婦」と言

われるほど仲の良いご夫婦です。「どなたでもご自由にどうぞ」とご自宅の庭も開放なさっている有馬さん。とても気さくで面倒見のよいお人柄が、その言葉からも感じられます。

☆第13回いるま生涯学習フェスティバル☆

みつけよう！あなたの生涯学習

生涯学習してみませんか？ あんなこと、こんなこと、いろいろ見て、体験して… チャレンジコーナーや展示、講演会等 イベント目白押し!! とにかく来て!!

日時：平成19年12月2日(日) 午前10:00~午後3:45
 場所：入間市産業文化センター・図書館・児童センター 他
 共催：入間市・入間市教育委員会・(財)入間市振興公社・入間市生涯学習をすすめる市民の会
 主管：第13回いるま生涯学習フェスティバル実行委員会

大募集!! 生涯学習情報紙「かがやく」編集委員

本紙「かがやく」の編集ボランティアを募集します。
 ※「かがやく」で取り上げて欲しい人物や活動等も随時募集しています。

●編集後記●

- 23号にご登場いただいた小峯里奈さんがエアロビクスF1GワールドシリーズMIXペア部門で第五位獲得!! 日本初の快挙。祝。
- 子供は希望。元気が欲しい時はバレーボールの応援が効果的です。(E)
- ポイスアウトが百年の歴史を歩み続けてきたことを知って、驚きました。子どもたちがいろいろな経験をしながら、人を思いやる心を育てるスパラシイ活動だと思えます。(O)
- 忙しい日々だからこそ、目の前にある草花に目を向けると、大切な何かを気づかせてくれるのかも知れません。(K)
- 社会的価値のあるものを求めるリーダーが増えてきたように思われます。自分の活動の場をいざいざしている方を目につけて。(S)
- 明るく、楽しく、仲良く。こういう生き方をしたいものです。近隣地域活動、そこから広い輪がひろがって行きます。一人一人、近くの人を大切にしたいと思えます。(N)
- 古木の美しさは写真には取れませんが、それは語り継がれるやさしいお声です。樹の大切さを知るには触れてみることで。(Y)

企画編集：「かがやく」編集委員会
 発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ 連絡先
 入間市教育委員会生涯学習課
 〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1
 TEL 04-2964-1111(内線4123) FAX 04-2964-4841

親子の楽しい成長の場



「子育ても、大好きなバレーボールもできているのは、主人の協力があればこそ。一番ありがたくて大切な支えです」と開口一番に感謝された島さんは、蒼依ちゃん(三歳半)のお母さんです。反抗期に入り、ダメ！ ヤメナサイ！が多くなってきました。「子育てってストレスが溜まりますね」と育児初体験しながら家事、保育園への送り迎え、仕事と忙しい中で、週一回二時間のバレーボール練習は欠かせません。ストレスを発散してリフレッシュ。試合の日(年六回以上)をアクセントに生活時間がリズムミカルに回転して、島さんらしい人生が彩られています。



▲地区春季親善大会で試合寸前の藤チーム練習。気合十分
▼あおいちゃんパパも応援子どもたちはゲームに熱中
▲強豪チームの大熱戦が展開

「最近の藤チームは新人さんがドツと増え、子どもたちも増えました。楽しそうなので子どもにもいいと思います、私も連れて行きます」と、物怖じしないでよく遊んでいます。子どもなりに状況判断ができているのだと思います。

メンバーは、幼稚園ママ友達のつながりで入られる方が多いですね。初めての方でもストレス発散には最適。ぜひおススメです」と

映画「草の乱」入間市上映実行委員会委員長 栗原正明さん(仏子)



「入間で上映するから加勢しろい！」このモチベーションを維持し高揚していった上映会の掛け人、それがこの人、栗原正明さん(四十九歳)。七年前、岩槻で働いていた栗原さんはリストラに遭遇、両親の住む地元仏子へ戻って来ました。そして以前からの念願だった地域活動に没入、飯能で障害者福祉施設に生活支援員として勤める傍ら、国際交流協会の『日本語教室』や環境ボランティア『やまがらクラブ』などに幅広く参加して来ました。そんな折、飯能で『草の乱』に出会い、同じ埼玉のこんな近くに『秩父事件』という史実があったことに感銘を受け、人間の力に一念発起。『草の乱』入間市上映会実現に向け、自分の心に火を灯したので

す。とはいえ、イベントとか上映会といった興行は全く未知の世界。右往左往しながら取り組んで来ました。そして、昨年八月十一日と十二日の二日間、市民会館でその夢が実ったのです。「とりあえず行



▲栗原さんが通った癒しの喫茶店。そのエネルギーギッシュなパワーと行動力の源泉はここから発達されました

いま、学んで、輝いて



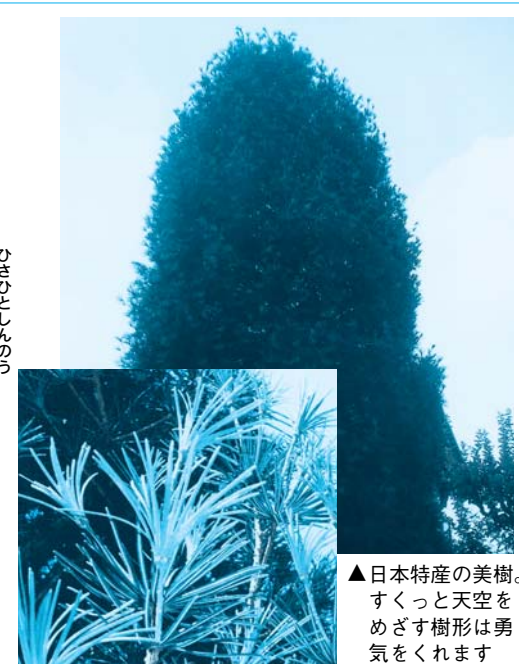
百年の歴史・ボーイスカウト シルバーリングが友達の証

イギリスから発祥したボーイスカウトは一九〇八年、日本に伝わり百年目を迎えました。入間市にもボーイスカウトが四個団、ガールスカウトが二個団あります。今回、宮寺・二本木地区を中心に活動している入間第三団の田中隼人さんの体験を紹介します。



▲アメリカ・ジャンボリーで交流
*入間第三団はビーバースカウト隊(6~8歳)6名、カプスカウト隊(8~11歳)13名、ボーイスカウト隊(11~15歳)11名、ベンチャー隊(15~20歳)7名、合計37名在籍

に参加し、二十二日間、ホームステイとキャンプを体験しました。キャンプで行なったジャンボリーでのアーリーナライブの規模の大きさに驚き、アメリカのBIGさを感じました。言語面では大変不便でしたが、スカウト仲間だから言葉や人種などが違って、お互いの心が通じ合い、ジャンボリー最後の日、別れがつかなく涙を流している人もいました。アメリカのスカウトに『住んでいる場所が違って友達だ』と言われ、シルバーリングを預かりました。友達の証として、いつも指に付けて大切にしています。この派遣で多くのことを学びました」と輝いている隼人さんでした。



▲日本特産の美樹。すくくと天空をめざす樹形は勇気をくれます

悠仁親王のおしるし 別れの盃、土産のコウヤマキ

昨年に誕生した秋篠宮家ご長男悠仁親王のおしるしのコウヤマキが、下谷ヶ貫の滝沢さんのお宅にあると聞き伺いました。手入れのゆきとどいた緑いっばいのお庭に、コウヤマキはすくくと美しく伸びていました。滝沢さんのお話によると推定樹齢八十年。菩提寺の安楽寺が高野山と同じ真言宗なので昔から『高野山詣』がよく行われていて、曾おじいさんが詣でた折に持ち帰ったものだそうです。コウヤマキの樹形は高さ四十メートルにもなる円錐形の高木で、枝端に数十枚の葉を輪生する葉姿をした日本特産種の美樹です。水に強いので風呂桶や船の材料に使われるそうです。お庭には滝沢さんご自身が高野山から持ち帰った樹齢十年の若いコウヤマキもあります。「現代は高野山詣も簡単だけど、昔は出かける時に家族や友人と水盃を交わして出かけたんですよ。そんな思いをしても行きたかったんだねえ」。二本の木の大きさの違いに過ぎた歳月の長さと思われ、これらもなお平和の中で人も植物も成長し続けることを強く願ったのでした。



長年の夢を現実に… 熊懐康彦さん(小谷田) 南フランス、パリ スケッチ一人旅

長年の三つの夢、その中の一つフランスへの旅を定年後実現された熊懐さんにお会いしました。一言でいえばエネルギッシュ。物静かな印象と違って実行力の塊のよう。インターネットを探した南フランスのホームステイ先は、フランス人と日本人のご夫婦と子供二人。フランス語は半年間の独学。二ヵ月半滞在中にカンヌ、マルセイユなど多くの都市とマティス美術館をはじめ美術館のほとんどをま

わり、スケッチした絵は海とヨットなど多数。大勢のステキなフランス人に会い楽しい充実の日々を過ごせたとか。ブドウ畑の中を走る鉄道で約三時間半でパリに移動、二週間ホテルに滞在し、乗り物はいっさい使わずに、ノートルダム寺院など名所を時間の過ぎるのも忘れて、スケッチしつつ歩き回ったそうです。バスで行ったベルサイユ宮殿やモンサンミッシェルのすばらしかったことなど、いきいきと話される熊懐さんは青年

のようでした。市役所の市民ギャラリーで行った『スケッチ展』の作品は、どれもステキでした。夢を持ち続けて実現することの喜びを認させていただきました。その喜びをたくさんの人に経験してもらえたらすばらしいと思



▲思い出を込めた作品
気さくなホストファミリーとの団らんの一コマ



とを強く願ったのでした。

古木・巨木と生きる